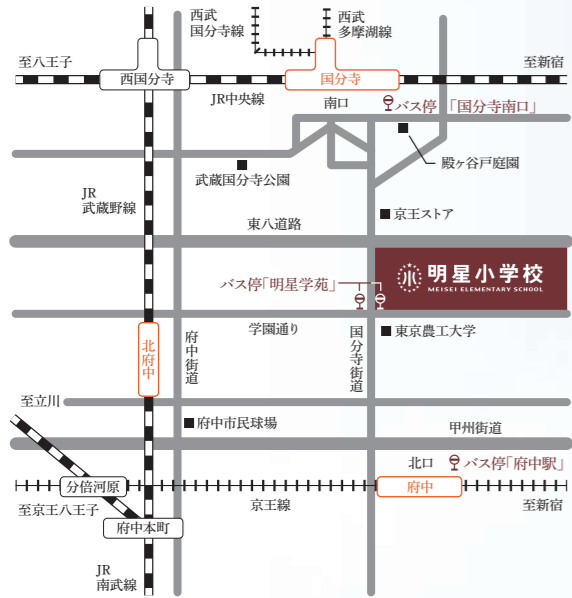


MEISEI

明星小学校
MEISEI ELEMENTARY SCHOOL

ACCESS



お車での来校はご遠慮ください。

- ・JR中央線・西武線「国分寺駅」バスより
京王バス(2番乗り場)「府中駅」行乗車(約7分)
「明星学苑」下車
- ・京王線「府中駅」より京王バス(3番乗り場)
「国分寺駅南口」行乗車(約7分)「明星学苑」下車
- ・JR武蔵野線「北府中駅」より徒歩約15分



「賢さ」と「豊かさ」を
兼ね備えた、
輝きをもった子どもへ

新たなプログラムや、
グローバル力を育む
教育システムを
実践していきます。

明星小学校
MEISEI ELEMENTARY SCHOOL

〒183-8531 東京都府中市栄町 1-1
TEL:042-368-5119
<https://www.meisei.ac.jp/es/>



学校法人明星学苑
明星幼稚園 明星小学校 明星中学校・高等学校 明星大学

深い学び

夢をかなえる力を育みます

小学校6年間の学びの一つひとつは、子どもたちの素直な心に感動を与え、好奇心や探究心を芽生えさせます。五感を通した「心が育つ、感動ある体験プログラム」や、各教科での「習得・活用・探究」という、それぞれの特質に応じた「見方・考え方」を学ぶ過程で培われる深い学びが、夢をかなえる力を育みます。



豊かな心

感動の数で、心を育てます

豊かな思考、豊かな発想、豊かな人との関わり、豊かな自然。明星小学校の生活の中には子どもたちの可能性を最大限に伸ばすカリキュラムが凝縮されています。豊かな環境の中で得られた数々の感動は、子どもたちを生き生きと輝かせ、豊かな心を育てていきます。



「賢さ」と「豊かさ」

私たちは、子どもたち一人ひとりを手塩にかけて育てています

明星小学校では、「賢さ」と「豊かさ」を兼ね備えた輝きを持った子どもの育成を掲げています。これからの社会に必要な、アクティブラーニングを重視した多彩な英語プログラムや、知的好奇心と論理的思考力を育てる理数プログラム、一貫校ならではの授業体制や体験プログラムなど、子どもたちの個性を磨いています。笑顔があふれ、どんな子どもも心を開き、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を、子どもと一緒に創っています。



凝念

心のはたらき

目を閉じて姿勢を正し、心のはたらきを一点に集め、精神を集中させることを凝念といいます。

物事の始まりと終わりの切り替えに凝念を行うことで、心を整え、集中して次の行動に移ることができます。心の成長につながる「凝念」の教えは、明星学苑の創立以来受け継がれており、教育の柱として現在の大切に実践しています。

※成蹊学園創立者中村春二先生が考案



アクティブラーニングを意識した多彩な英語プログラム

英語の授業の3つのルール「ファ、レ、ミ」

ある年の入学式。講堂で行われた新任の英語教員からの挨拶。“Hello. I’m……. How are you everyone?”。すると一斉に“Hello! I’m good.” “I’m excited.” など子どもたちの答えが講堂中に響き渡りました。子どもたちの元気な声と多くの返答に教員はびっくり。その様子を見て私はつい笑ってしまったと同時に、その姿を心から誇らしく思ったことを覚えています。子どもたちにとっては日々の挨拶という何気ない行動でしたが、自分の言葉で咄嗟に反応するその力は、まさに真のコミュニケーション力といえるのではないのでしょうか。初対面の人にも臆することなく、相手に応えようとする一生懸命な子どもたち。私は、そんな明星小学校の子どもたちが大好きです。

英語「で」伝え合う。

その楽しさを、体験を通して感じてほしい。

昨年度より小学校での英語教育が必修化され、さらなる急速なグローバル化に対応できる人材が求められています。本校の英語教育では、知識を獲得するだけでなく「自信を持って、英語で自己表現できる子」の育成を目指して日々指導を行っています。さらに、「自信を持って」表現するためには、“can(できる、できるかも)”を増やすことが必須だと考えています。

本校では、台中教育大学附設実験小学との交流をはじめとする国際理解活動を多数実施してきました。子どもたちは海外からのお客様に戸惑いつつも、「Let’s play together. (一緒に遊ぼう)」「What food do you like? (何の食べ物が好き?)」など共通言語である英語で、伝えたいことをどう表現したらよいのか必死になって考えています。授業で得た知識やジェスチャーを駆使し、コミュニケーションをとることができた時の子どもたちの表情は、達成感に満ち溢れた格別なものです。

子どもの実体験に結びつけ、興味・関心や疑問を持って取り組むことのできる環境を設定することで、子どもは自然と好奇心を持ち、主体的に活動します。さらに、相手に伝えることができた時には「伝わった!」と喜びを実感し、「もっとできるかもしれない!」「もっとチャレンジしたい!」という意欲に繋がっていきます。

教科書の単語や表現を覚えるという、英語を第二言語として捉えた学習だけではなく、「When(いつ)」「Where(どこで)」「Who(だれが)」「How(どうやって)」をどう使うのか意識した学習を取り入れることで、子どもは日常生活における出来事や身の回りの事象に置き換えて想像し、当事者意識を持って活動することができるのです。

より多くのトライアル&エラーを

1年生から週2時間、6年生では週3時間と授業時数が確保されているものの、多くの知識やスキルを子どもが発揮するためにはさらなる実践の場が必要です。本校では、英語漬けの3日間を送るEnglish Camp、英語の暗唱大会Recitation Contest、浅草での英語インタビュー、放課後英語プログラムStar Village(英語村)など、充実した体験学習の機会を設けています。大切なことは、多くの失敗をすること。新たなことに挑戦する時には、意思が伝わらない、思い通りにいかないといった失敗はつきものです。「練習したのに伝わらない。」「応えてもらえない。」「そのジレンマを抱えながらも「どうしたら伝わるのか。」「どのように発信すると応えてもらえるのか。」を、試行錯誤しながらさらに発信していくこと、これこそが英語力を身につける上で必要不可欠な過程ではないでしょうか。一時的な経験だけではなく、トライしてエラーが発生し、その解決策を考えてさらにトライする。その過程が子どもをより成長させるのだと思います。

生きた英語!もっとやりたい!

小学生の興味は計り知れないほど広く深く、私にとっても毎日が驚きと発見で溢れています。さらに英語学習における子どもの関心は日々とどまることを知りません。「～は英語で何というのかな?」「～と…は意味が同じなのに、どうやって使い分けるの?」など、子どもたちのつぶやきで予定していた授業内容が終わらないということは日常茶飯事。時には自主学習で調べ、時には英語を母国語とする教員に教えてもらい解決していきます。

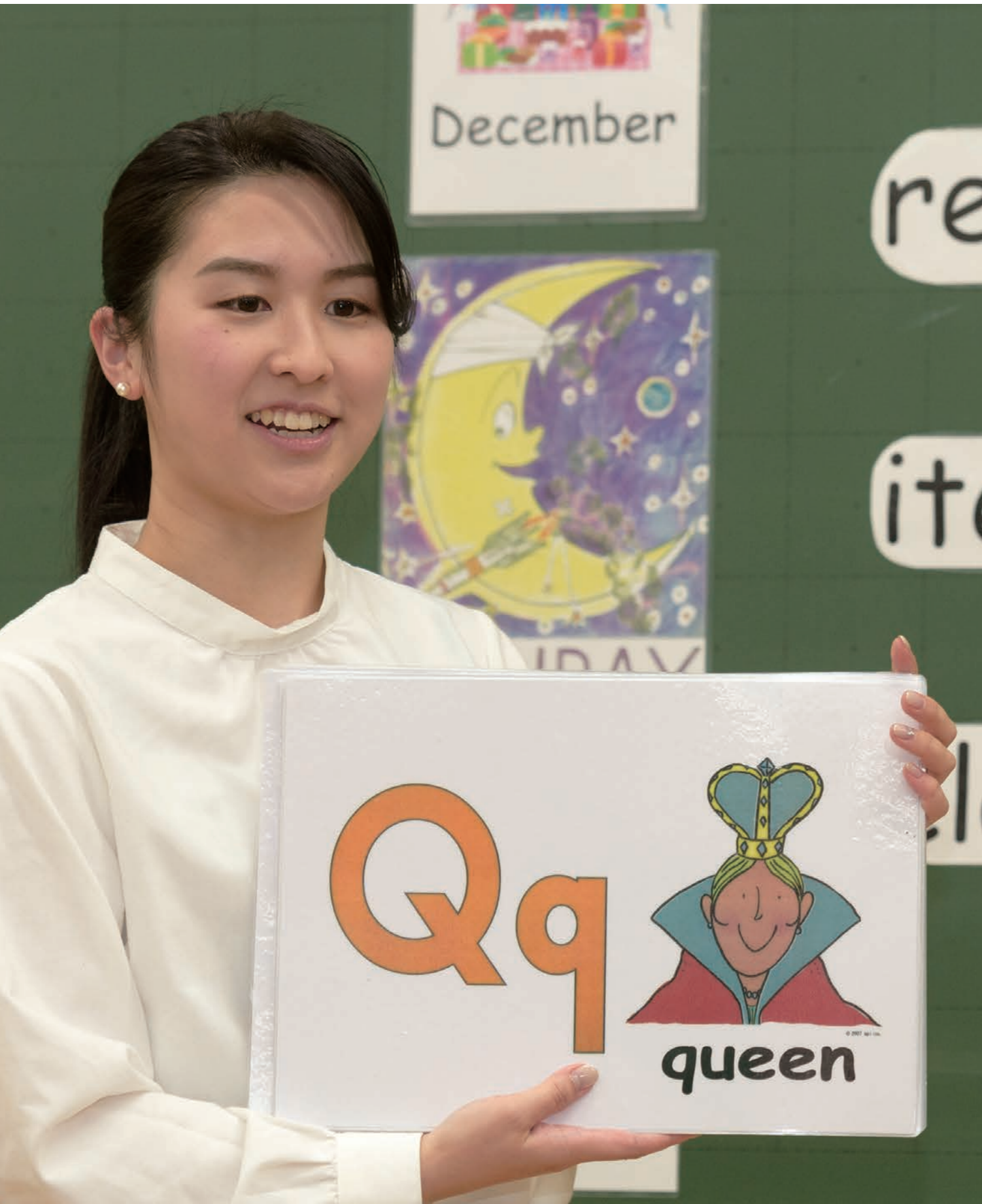
本校では昭和50年に英語を母国語とする教員による英語授業が開始され、以来46年間、各学年英語を母国語とする教員による授業が行われています。日本人教員では判断できない感覚や文化を子どもと共有することで、その興味・関心をさらに広げ、さらなる意欲に繋がっています。

英語授業のコラム Column

本校の英語の授業の3つのルール「ファ、レ、ミ」。

- 1 **Have fun.**
(楽しく学ぼう。)
- 2 **Respect each other.**
(お互いを尊重しよう。)
- 3 **Mistakes are treasures.**
(間違いは宝物)

本校の英語の授業の3つのルール「ファ、レ、ミ」。“Have fun. (楽しく学ぼう。)” “Respect each other. (お互いを尊重しよう。)” “Mistakes are treasures. (間違いは宝物)”を意識した指導を日々行っています。小学校教育は子どもの人格形成に非常に大事な素地を育てる期間です。日々の友だちや教員との関わりの中で「他」を思い「自」を愛せるような子どもになってほしいと思います。



奥田 茜
英語科主任

「算数好き」という気持ちを育て、筋道を立てて考える力を養います



河合 智史
算数科主任

「できた!」経験が自信につながり、自信が問題に挑む原動力となり、どんどん算数が好きになる。

子どもの頃を思い出してみてください。算数が好きだったでしょうか?算数が好きな人は「答えが求められるとすっきりする」という理由が多いようです。一方、苦手だった理由として、「分からなくなるとずっとついていけない」「計算が大変」などが多いようです。算数は積み上げていく教科です。新しい問題であっても、基本的には今までの学習を振り返れば、おのずと問題を解くことができるようになっていきます。そこで大事なことは記憶の引き出しにどのようにしまっただけかということ。公式だけ覚えようとしていたのでは、うまく引き出すことができません。どのようにしてその公式になったのか考えた経験が、その引き出しにはいっしょに入っていないと引き出すことができません。公式を覚えても、面積を求めることができます。

突然ですが、台形の面積を求める公式をすぐに頭に思い浮かべることができますか?「(上底+下底)×高さ÷2」です。公式は覚えていればすぐに問題を解くことができます。しかし、公式を覚えていないと解くことができないのでしょうか。そんなことはありません。公式を用いなくても、面積を求めることができます。

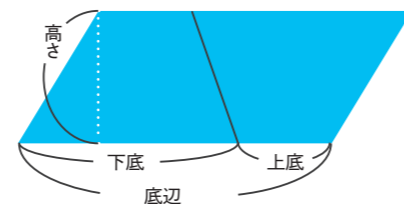
Challenge!

右の台形の面積は?



Answer!

台形の面積の求め方の例
同じ台形をひっくり返して平行四辺形にする。



論理的思考力や表現力を伸ばし、算数好きを育てる。

「22」という数字を聞いて何を思い浮かべますか?「数字が並んでいる」「20+2」「2の11倍」「誕生日?」...。誕生日はちょっと違うかもしれませんが、瞬発的に数を分解したり、合成したりする力を数感覚といいます。車のナンバープレートを見て「+-×÷(四則演算)」を使って10を作った経験はないでしょうか。

「豊かさ」と「賢さ」

本校では、算数の授業のはじめの5分間に「A.A. 授業 (Arithmetic Activity)」を取り入れています。例えばこのような「メイク10(10づくり)」を授業のはじめに行うのです。(1, 1, 4, 9)で10をつくることはできますか?頭の中でたくさんの計算が始まります。(1+1)×(9-4)で10をつくることができます。問題によっては+-だけでもつくることができるので、1年生から楽しめます。このような問題を継続していくと、子どもたちは瞬時に10をつくり出すことができ、数感覚が豊かになります。楽しみながら、計算の練習にもなります。しかし、時には5分間の中では解決できないこともあります。すると、翌日「できました!」と嬉しそうにノートを見せにくる子がいます。家でもずっと考えていたようです。みんなにも紹介すると「すごい!」と称賛され、本人は恥ずかしがりながらもうれしそうです。「メイク10」の他にも「タングラム」「パターンブロック」など、形づくりを通して図形に親しむ活動を取り入れたり、相手のカードを当てる「アルゴゲーム」を通して、論理的に考える力を育てたりしています。

子どもたちはこのような活動が大好きです。算数が苦手と思っている子どもも解くことができると、「できた!」と笑顔がこぼれます。できた経験は自信につながります。自信は算数の問題に挑む原動力となり、どんどん算数が好きになります。算数を楽しむ心は教師自身ももっている必要があります。子どもと一緒に算数を楽しみながら、心の「豊かさ」を育てていきます。

また、数や図形を豊かにみることができると子どもたちは、算数のおもしろさを自分たちでたくさん見つけます。それが「賢さ」だと思います。学校で学んで終わりではなく、家に帰っても考えたい、追究したい。子どもの知的好奇心をくすぐり、火をつけるような授業づくりができるように心がけています。

A.A.授業の様子



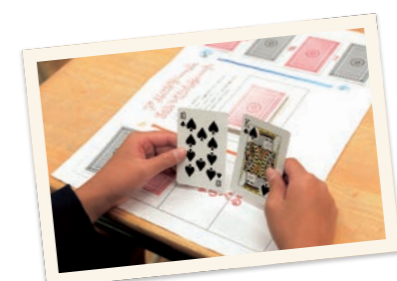
「ジャマイカ」

黒の数字の和を、白の5つの数字でつくります。



「メイク10」

4つの数字で10をつくります。



「アルゴゲーム」

自分のカードをもとに、相手の4枚のカードを当てます。



「マンカラ」

おはじきを動かして、自分の陣地からおはじきが無くなれば勝ちです。

算数授業のコラム Column

河合先生の授業の様子



自分の考えをノートにあらわすことで、考え方を広げていきます。



算数の授業内でのプログラミングも行っていきます。

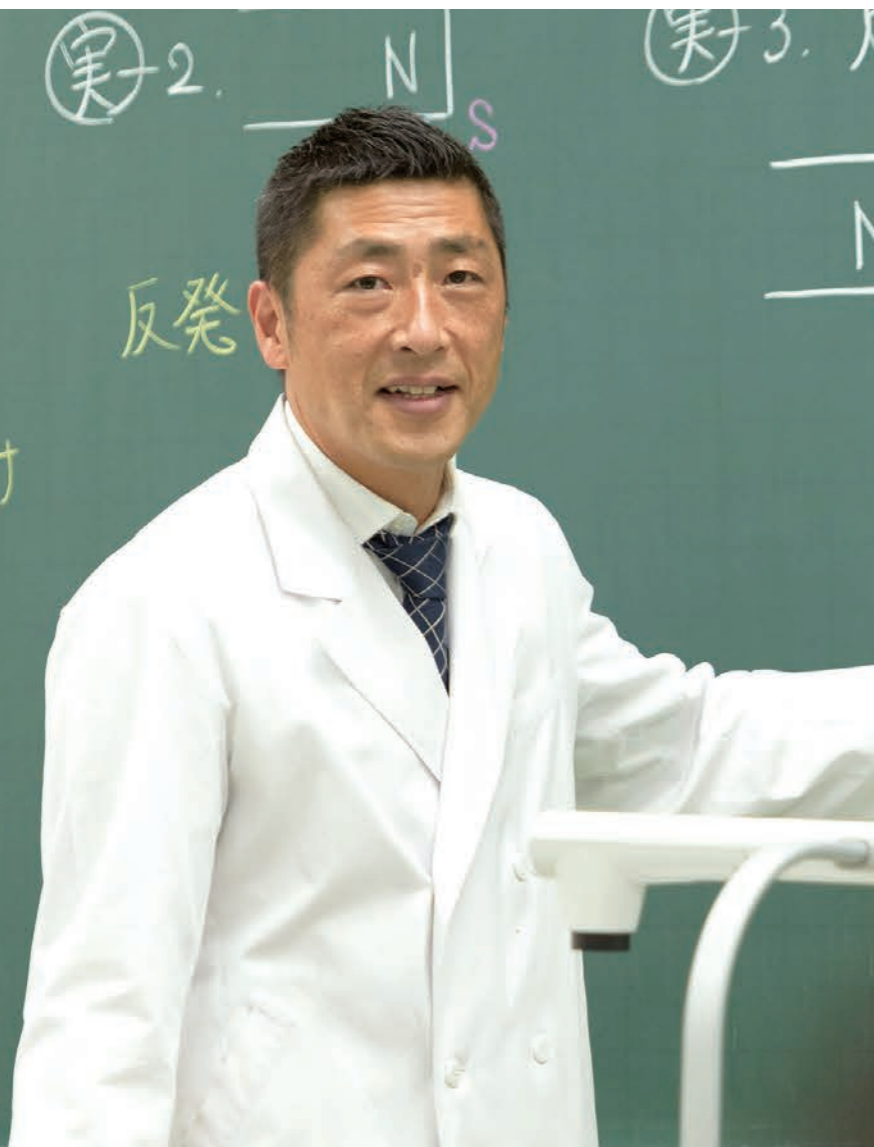


自分の考えていることを発表することで、振り返ることができます。



友だちに見てもらうことで様々な考え方を知ることができます。

理科学習のキーワード「ふしぎ発見!!」



「なぜ? どうして!?! やってみよう!!」 なるほど理科

本校では、「小・中一貫教育を重視したカリキュラムづくりと新しい理科授業」をテーマとして、カリキュラムの見直しを行ってきました。その内容は、次の2点です。

低学年理科のカリキュラム

1・2年生の「くぬぎの時間」に、ゴムや磁石の力、豆電球を使った簡単な実験、昆虫や植物の飼育栽培・観察など、理科的内容の充実を図り、興味関心を深めます。柔軟な思考で吸収力の大きい低学年のうちから、理科教材や身近な理科的事象に直接ふれ、五感をはたらかせて楽しく活動することで、子どもたちの理科に対する関心や探究心を芽生えさせ、「理科が嫌い」、「理科は苦手」を防ぎ、「理科好きな子」を育てることができると考えています。そして、3年生以上の学年では実験や観察の時間を充実させることで、科学的な見方、考え方を高めていくことができます。

中学校理科教諭による、より高度で 専門的な理科授業の実施

6年生の理科では、明星中学校の先生が必要な教材や教具を準備して授業を行います。時には中学校に行き、より本格的な実験器具や天体望遠鏡などの施設を利用することもあります。また、中学校の指導内容にも触れることで、小学校の指導内容をより深化させ、中学校に進学した際に、既習体験から授業を牽引するリーダーとして成長してくれることを期待しています。

中山 浩二
理科主任

先生のコラム Column

中山先生が授業を行うにあたって心がけていること

- 1 身のまわりの事象の中から疑問を抱く
- 2 実験・観察を通して不思議を知る
- 3 不思議のスパイラルを感じる

理科は、不思議に思うことから学習が始まります。その不思議について観察や実験で調べ、「なるほど、そうか!」と理解し、「もっとないか?」と探究していきます。やや難しい実験を通して知的好奇心を養い、探究心を育て、失敗を恐れず粘り強く取り組む姿勢を育てていきたいと思えます。「なぜ?」「どうして!?!」「やってみよう!!」この知的好奇心のスパイラルを、これからも大切にしていきたいと思えます。

「くぬぎの時間」は、教科にとらわれない、 体験を主体とした活動の時間です

「体験」することで出会う「感動」 年間を通して学ぶ、一人ひとりが輝く時間

飯田 尚子
低学年くぬぎ科主任

丸山 農
高学年くぬぎ科主任

「わあ、すごい!」「面白い!」「びっくりした!」「なんだろう?」くぬぎの時間には、いつも子どもたちの感動の声が聞こえてきます。本校では体験教育を大切にしています。この低学年の「くぬぎの時間」も例外ではなく、自然とのふれあいの中で四季を感じる活動、畑で草花や野菜を育てる活動、空気や磁石・電気の力を使ったおもちゃを作る理科的な活動、感じたことや発見したことを言葉や文章にする国語的な活動、上級生や幼稚園児と遊ぶ交流活動などを行っています。

体験を積み重ねていく中に様々な学びがあり、子どもたちの心を豊かにします。そして、これからの生活をよりよいものに変えていく力となります。また、子どもたちの新たな興味・関心を引き出したり、高めたりすることで、他の教科学習での学力向上も期待できます。体験から得た小さな感動が子どもたちを大きく成長させる、それが低学年のくぬぎの時間です。

3年生以上の「くぬぎの時間(総合的な学習の時間)」は、低学年で体験したことや、他の教科で学んだことを生かして、児童自らが計画し活動する、「体験」を主体とした時間です。「自ら考え、実践し、伝え合える子」というくぬぎ科の目標に向かい、学級ごとに活動内容を決定します。

学級で活動内容を決定する際には、児童が自分たちで話し合う時間を重視しています。年間を通して学級で取り組む活動について、みんなで意見を出し合い、時間をかけて検討していきます。

自分たちで計画した活動は、主体的に取り組むことができるため、自ら考え、行動する貴重な経験を繰り返すことができます。

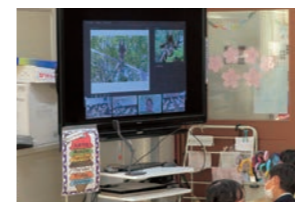
具体的には、「府中市のPRを考える活動」「老人福祉施設や動物愛護センターを慰問する活動」「映画作りを行う活動」などを行ってきました。どの活動も、今までの経験を生かし、児童自らが積極的に進めている様子が見られました。

このように「くぬぎの時間」は、体験教育を重視する明星小学校の「要」の教科となっています。



体験授業のコラム Column

授業の様子



1年生上野動物園Zoom訪問



3年生お菓子作りのプレゼン



お菓子屋さんを前に



SDGsに関するVTR作成

論理的思考力や発信力を育む、ICT教育



岩崎 佑亮
ICT部会主任

人とのつながりを感じ・自己を表現するICTと、「夢をかなえる」プログラミング

これからは人間の可能性を広げる世界へ

想像してみてください。10年後、20年後、現代の子どもたちが社会に出る頃には、日常はどのように変化しているのでしょうか。おそらく、さらにAIの導入が進み、様々な電子機器に溢れ、生活はどんどん便利でスマート化されたものになっていることでしょう。

これまでの10年・20年間の歩みを振り返ってみても、身近にある機器はどんどん変化を遂げてきています。文化と共に変化してきたものです。しかし、人工知能(AI)などが行えることは、人に代わって任せていくことが増えたとしても「人間中心の社会」であることには変わりません。年齢や障害による労働や行動範囲の制約など、様々な問題にロボットなどの技術を活用することで人間の可能性を広げる世界へと変化していくのです。

ICTは「思考力・判断力・表現力」をつける効果的なツール

このような世界を生きるためには、今、ICT教育で何を大切にしていってほしいのでしょうか。「ICT脱教具論・ICT文具論」という言葉があります。これは、ICTを授業の中で写真などを提示する際に、教師が主体として使うものではなく、子どもたちが何かを書く際に、ペンや鉛筆を手取るように、また何かを切るときにハサミを手取るように、ICT機器も文具と同様に扱えるものとして、学習者自身が主体となって使う物であるべきだという思いから生まれた言葉です。つまり、新たに変わるとはいつてもICT機器は思考や表現をするための一つのツールだということです。今後はこのようなICT機器を用いた個別最適化が目指され、AIによる学習分析やオンデマンド上での学習の活用など、個々に合わせて学びたい時に学べるように変化していきます。ここで大切にしたいことは個別最適化であり、孤立化ではないということです。個々の学びに寄り添いすぎて、集団としての意味を失ったり、誰かと協働的に考えるという機会がなくなったりしてしまうわけではありません。

本校のICT教育は、学習内容を提示して習得させるような「コンピューターが子どもに教えるもの」でも、「教師がわかりやすく教えるために使うもの」でもなく、「子どもがコンピューターで学びあったり、子どもがコンピューターに教えたり(プログラムを組む)など、子どもが思考し、コミュニケーションできるツール」として考えています。

「失敗」を楽しむことで生まれるアイデアと改善意欲

もう一つICTに関連して話題になっている言葉があります。それは「プログラミング的思考」です。もちろん、全員がプログラマーになるわけではありません。ではなぜ、そのような思考を身につける必要があるのでしょうか。それは「夢をかなえる力」になるからです。具体的にはトライ&エラーの数を増やし、身近に感じることで、知識と知識を結びつける構造に気づくことができるからです。

「失敗」という言葉を聞くと、嫌な気持ちだったり、抵抗感があつたりすると思います。例えば、学習の場面で問題を解く際に、一生懸命時間をかけて計算したり考えたりした結果が失敗だと、かけた時間の分だけ辛さが増して、リベンジする意欲は減ってしまいます。しかし、自分の生活や日々を振り返ってみるといかがでしょう。失敗は意外と身近にあるものです。成功が結果として残りやすいので、なかなか表面的に見えないだけです。プログラミング学習の中ではこの時間をかけて「実行してみる」部分をコンピューターが担うため、上手くいったかどうかは瞬時に返ってきます。そうするとトライ&エラーの数が増え、「失敗」はもっと扱いやすく、身近なものになっていきます。また「失敗」自体を楽しむこともできます。失敗を楽しむことこそが、新たなアイデアを生み、よりよいものへと発展させる意欲になります。そこから自然と自分の意図する活動に近づけるには、どのような改善が必要なのかと考えるこの過程が「プログラミング的思考」の本質なのです。そしてそれは、生活に生きていきます。例えば料理や買い物の手順を考えるときのように、それぞれの教科等で学んだ知識同士をつないで「実行→結果→改善」を繰り返す経験を育てていくことで「夢をかなえる力」になります。

人と人をつなげるための媒介や表現の手段としての活用

本校では、株式会社ベネッセコーポレーションさんと共同開発したプログラミング教材を全学年で行う算数や、実際に自分で撮影した画像を背景にして俳句を作る国語など、各教科での活用だけでなく、3・4年生には「コンピューター学習」という授業を特設し、学校を紹介するスライドや、動画の作成・編集も行っております。また、明星大学情報学部とも連携し、より高度なプログラミングを体験できる機会もあります。

ICT機器を、人と人をつなげるための媒介や表現の手段として活用し、子どもたちの「夢をかなえる力を育む学び」を目指して、時には県外、時には国外へ、様々な壁を乗り越え、多くのつながりを体験できるICT教育を目指していきます。

ICT授業のコラム
Column

コンピューター・iPadを使った授業の様子



3年生は文字の入力から学習が始まります。



プログラミングの授業は皆、真剣な眼差しです。



iMovieを使っての明星小学校の紹介動画づくり。



「体験に基づき、自分で考え、行動し、友だちと伝え

合える学び方」を大切にしています。

各教科において、アクティブラーニングと、一人ひとりの学びの
さらに、確かな学力はもとより、子どもたちが大人になった時を見据えて、「論理的思考力」や「発信力」、

ステージに寄り添う指導を行っています。
「コミュニケーション力」を育てる独自のカリキュラムを取り入れています。



国語は、すべての教科の基礎となる教科です。本校では、教材を通して、論理的思考力を育てることに力を入れています。物語文、説明文、詩それぞれに、読み解くためのきまりや用語があります。それらを低学年からしっかり学んで、高学年では、そのきまりや用語を自分で活用しながら、根拠を持って論理的に考え、文章を正しく読み取れる力をつけていけるように、指導をしています。

日々の日記は、文章力をつけるだけでなく、その日一日を自分自身と向き合って振り返る貴重な時間にもなっています。さらに、全校で漢字検定にもチャレンジしています。毎年90%前後の合格率で、漢字検定の協会からも表彰されています。

1月には、書き初め会を行っています。日本の伝統文化を大切にすることも育んでいます。

国語
Japanese



一般的に社会科の授業は、「調べる」「考える」「わかる」活動が展開されますが、本校では、社会科で学んだことを、その後の学習や社会に生かす活動を位置づけ、社会に関わろうとする意識を養うようにしています。その実現のために、「あれ?」「どうして?」といった子どもたちの追究意欲を高める教材を身近なものから選択し、子どもたち自身が興味を持って取り組めるような授業を心がけています。

日々変化する現代社会において、情報をどう選択して、どう活用するのか、未来に向けて自分の考えをどう発信していったらよいのか、子どもたちと共に考えています。

社会
Social studies



道徳教育を学校生活のあらゆる場において、繰り返し実践していこうという児玉九十先生の教えが代々受け継がれ、日々実践しています。

授業では、実際の生活場面を設定しながら、その時々自分のすべき正しい行動を考えたり、相手の気持ちになって物事を考えたりする場面を積極的に設けています。道徳の授業で学んだことを普段の生活で生かせるような授業を目指しています。

また明星小学校の道徳教育として、「凝念」に力を入れています。創設以来受け継がれる心の教育を日々大切にしています。

道徳
Moral



1年生から音楽室で授業を行っています。友だちと一緒に音楽を作る素晴らしさを実感したり、美しい曲を聴いて友だちと共感したりすることで、心が磨かれるように取り組んでいます。一人で音楽を楽しむよりも、友だちと関わりながら楽しむことによって、一人ではできなかった発見や、友だちのいいところを見つけて自分の演奏に活かすことができます。毎年、開催される音楽会では、下学年が上級生の合唱を憧れのような姿で聴いている姿がとても印象的で、会場内がとても温かな空気で包まれます。

音楽
Music



「心をこめて丁寧に」という気持ちを大切に、自分だけの色や形を探しながら創造力を働かせて表現をする造形活動を目指しています。紙や木、土、石などの素材や、それらを扱う様々な道具に触れさせて表現の幅を広げ、感性・創造性を豊かなものにするよう取り組んでいます。

低学年では加工のしやすい素材や道具に親しみながら、色形の多様性と、造形の基礎基本を学びます。中学年では、扱う素材や道具、表現の幅を広げ、高学年では、培ってきた感覚や技術を生かして、「用途を考えた造形制作」を行い、中等教育へ向けての礎を定着させます。

図工
Art&Craft



将来、どんなスポーツに出会っても「おもしろそう!」「できそう!」「できるかも!」と思える心と体づくりを目指しています。特に低学年から動ける体づくりを意識し、様々な動きを行う中で、運動の感覚を高め、6年間の心と体の発達段階を考慮して、スモールステップを踏んだ独自のカリキュラムを作成し、授業を行っています。また、思わず子どもたちから動かしたくなる運動を行っている中で、男女分け隔てなく支え合い、補助し合い、応援し合い、高め合える活動を積極的に取り入れています。

体育
Physical Education



家庭科では、衣食住に関する実践的・体験的な活動を大切にしています。その学んだ知識を生かして、生活をよりよくしようと工夫する能力を育てています。

例えば、5年生の最初には、全く裁縫の経験がなくても、5年生の終わりには、手縫い、ミシン縫いができるようになります。そして、6年生の最後には、自分の好きな作品を工夫して製作することができるようになります。また自立に向けて、家庭生活の中での自分の役割について考えたり、金銭の使い方や環境に配慮した生活について考えています。

家庭科
Home Economics

明星小学校の教育

「健康・真面目・努力」の校訓に基づき、明るく、強く、正しい精神を体得させ、あくまでも良識と実践力のある心身ともに健全な児童・生徒等の育成を目的として創立以来歩んでいます。

● 教育目標 賢さと豊かさを兼ね備えた輝きをもった人の育成

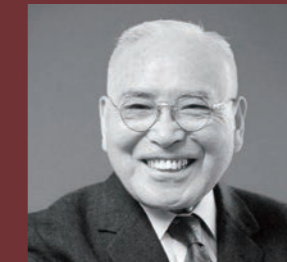
- 生活目標
 - ・心身のバランスを身に付ける低学年
 - ・学ぶ喜びを知り、チャレンジ精神を養う中学年
 - ・自ら考え行動する力と友人とのつながりの中で協調性を育む高学年

● 教育内容・教育方法 良識と実践力のある子どもの育成を目指しています。

- 低学年 心身のバランスを整え、物事を正しく感じ取る。
- 中学年 何事にも自ら進んでチャレンジし、意見を伝え合う。
- 高学年 自分で課題を見つけて取り組む。

明星学苑の教育

- 教育方針
 1. 人格接触による手塩にかける教育
 2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育
 3. 実践躬行の体験教育
- 「建学の精神」
和の精神のもと、
世界に貢献する人を育成する



明星学苑 創設者
児玉 九十先生

1888年静岡に生まれ、四高を経て東京帝国大学文科大学にて東洋史学を専攻する。王陽明の「知行合一」を信条とし、卒業後は中村春二氏に請われて成蹊学園主事に就任し、私学教育に従事。1923年、明星実務学校創設者となる。1949年に制定された私立学校法の基礎をつくり、1989年に没するまで、幼稚園から大学を擁する総合学園を指揮した。

緑豊かなキャンパスが、
感性を磨きます

授業だけでなく、朝の会、昼食の時間、休み時間など、すべてが学校生活の大事な一部です。たくさんの友だちとのふれあいの中で、毎日新しい出会いがあり、その一つひとつが成長の糧になります。

School Life



委員会活動

運営 / 集会 / 生活 / 美化
保健体育 / 飼育栽培 / 図書 / 放送テレビ

クラブ活動

造形 / 手芸 / 科学実験 / 和太鼓
ミニバスケットボール / 一輪車 / ダンス
ティーボール / コンピューター(プログラミング)

生活時程表

		月	火	水	木	金	土
予鈴							
本鈴							
朝の会	8:25~8:35						
児童朝会 国語学習	8:35~8:50	全校 朝会		朝国語		全校 集会	
1	8:55~9:40						家庭 学習 日
2	9:45~10:30						
ほのぼの (15分間)	10:30~10:45						
3	10:50~11:35						
4	11:40~12:25						
昼休み	12:25~13:10						
5	13:15~14:00						
6	14:05~14:50						
クラブ 委員会 (50分間)	14:20~15:10						

※月曜日は隔週でクラブ活動(4~6年生)と、奉仕委員会活動(5・6年生)を行う。
 ※朝の国語学習は、作文・漢字・読書等の内容を行う。(15分間)
 ※火曜日は4年生社会・5年生体育、木曜日は6年生体育、金曜日は5.6年生くぬぎを
 ロング(14:05~15:05)で行う。
 ※特別編成(マーチングバンド)は、月・火・木の放課後(15:20~16:20)に練習を行う。



Photo

- ①登校の様子 ②くぬぎの時間(畑の活動) ③英語の時間 ④わかる、わかる!
 ⑤休み時間の様子 ⑥昼食 ⑦帰りの会でそうじ ⑧体育の時間 ⑨下校の様子



使う英語で
コミュニケーションを
とることに挑戦!

11月
浅草
校外学習
【4年生】

1年生から学んできた英語を実際を使って、外国の方々とコミュニケーションをとるための活動です。学校で事前に先生方を相手に練習してから、この校外学習にのぞみます。理解してもらえた時の達成感はとても大きい活動です。

Yearly
Events



5月
運動会

徒競走やクラス対抗リレー、綱引きなどの競技で、みんなの力を一つにして頑張ります。最終学年の6年生は、演技で力強さを見せてくれます。

6月
海辺の教室
【3年生】

千葉・鴨川方面へ2泊3日の海辺の教室へ出かけます。磯の観察でたくさんの発見があります。



9月
明星祭



展示発表とは別に、児玉九十記念講堂にて、3年生は劇の発表を行います。

感動の数で心を育てます

大自然の中で、緑豊かなキャンパスで、一年を通して、心躍る行事がたくさんあります。ひとつ季節がめぐるたびに、成長を実感するでしょう。

10月
修学旅行
【6年生】



京都・奈良方面への3泊4日の修学旅行。世界遺産の名所を巡ります。



School
Facilities

くぬぎホール

緑あふれるキャンパスは、 1400本もの木々が茂る、 自然の宝庫です

明星小学校は、明星幼稚園、明星中学校・高等学校と同じ府中キャンパス内にあります。約1400本の樹木が茂る森は植物の宝庫。広い敷地内に、畑や田んぼがあり、自然観察、作業体験ができるのも魅力です。校舎をはじめ施設も充実し、安心して学校生活を送ることができるキャンパスです。

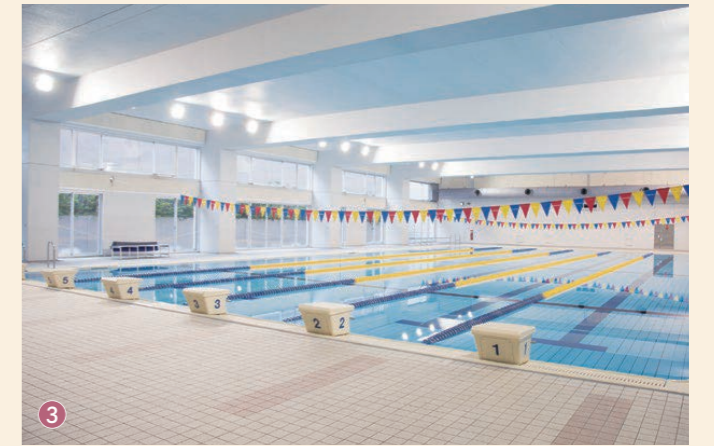
くぬぎホールは、校舎の中心にある3階まで吹き抜けの明るく開放的なホールで、子どもたちが触れ合う集いの空間です。



1



2



3

1 人工芝の校庭

雨が上がった後もすぐに遊べます。

2 体育館

校舎内の中心にあり、しっかり運動ができる広々とした屋内空間です。

3 総合体育館(プール)

身長に応じて床の高さが調整できる自慢のプールは、学苑全体で使用しています。

4 図書室

休み時間は、本好きの子どもたちであふれています。

5 メディアルーム

3クラス分のiPadがあり、教室内はもちろん、校内どこでも使用できるようWi-Fi環境も整っています。

6 英語室

一体化されている机と椅子で、多彩な授業形態を作り出すことができます。解放感のある明るい教室になりました。



4



5



6

伝統を感じさせる、品のいいデザイン
活動的な小学生にふさわしく、動きやすさを重視しています



冬服
(女子)

10月中旬から4月いっぱいまで着用。紺色サージの落ち着いた装いです。エレガントなえんじのスカートが特徴です。



合服
(女子)

5月初旬の春先や10月下旬までの秋口の肌寒い日は、合服を着用できます。ジャンパースカートに長袖ブラウスの組み合わせになります。

Winter School Uniform

合服
(男子)

5月初旬の春先や10月下旬までの秋口の肌寒い日は、合服を着用できます。夏服の上に霜降りの上着を着用します。



10月中旬から4月いっぱいまで着用。紺色サージの落ち着いた装いです。ホックで留める上着は品を感じさせます。

冬服
(男子)



夏服
(男子)

5月から10月下旬まで活用。霜降りの半ズボンに白の開襟シャツです。胸には校章が刺繍されています。



校内着

登校すると、黄色いポロシャツに、男子は半ズボン、女子はキュロットスカートに着替えます。ポロシャツの襟の色は3種類。自由に選ぶことができます。

Summer School Uniform



夏服
(女子)

5月から10月下旬まで活用。吊りスカートに白の半袖のブラウスです。胸には校章が刺繍されています。



運動着

赤い星のロゴマークがアクセントの運動着は、男女共通です。主に体育の時間に紅白帽とあわせて着用します。冬場に着用する長袖も準備しています。

通学リュック&セカンドバッグ

1年生から通学リュックを使用しています。黒色の校章入りリュックを、6年間大切に使用します。また、荷物の量によって紺色のロゴ入りセカンドバッグも併用しています。





下校指導
学苑からのバス乗車の際の見守りの様子

明星小学校は、セキュリティや安全対策に万全を期しています

放課後預かり「明星っ子クラブ」や「昼食注文システム」など、仕事を持つ保護者の方のためにも様々なサポートを行っています。学校とご家庭との二人三脚で、子どもたちの成長を見守っていきたくと考えています。



正門での守衛の見守り

正門・南門・北門それぞれに守衛を配置し、不審者の侵入を未然に防いでいます。また、登下校時の児童の交通誘導も行っています。



防災倉庫

災害時の備品として、帰宅できない児童への対応として、食料や飲料水・毛布などを用意しています。



メール配信システム

児童の登下校の情報を、保護者の方の携帯電話やパソコンにメールで配信するシステム「れんらくアプリ」を活用しています。災害時や臨時休校などの情報を配信したり、学校からのプリントもれんらくアプリを使って配信しています。



防犯設備

学苑の各出入口には常に守衛を配置。また学内に設置した防犯カメラにより、24時間体制で児童の安全を見守っています。



避難訓練

災害に対する心構えを指導すると同時に、万が一の災害を想定した避難訓練を年間4回欠かさず行っています。9月の訓練は、学苑合同防災訓練として、幼稚園から高校まで一斉に実施します。また宿泊学習先でも到着後にまず避難訓練を実施し、児童の防災への意識を高める大切な取り組みとなっています。



バスマナー教室

普段から登下校時に公共交通機関を利用している児童が多いので、京王バスと連携し、構内にバスを乗り入れてもらい、乗車マナーを確認する授業を行っています。



交通安全教室

入学後すぐに府中警察署のご指導のもと、交通安全教室を実施し、登下校時はもとより、日々の生活の中での交通安全について学びます。



セーフティ教室

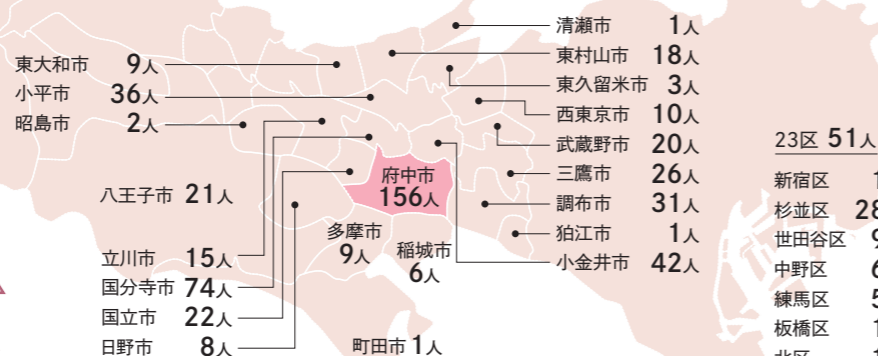
毎年夏休みを前に、セーフティ教室を実施しています。府中警察署のスクールサポーターの方から、低学年は連れ去りをテーマに、高学年はSNSのトラブルをテーマにお話していただいています。また教員に対しても不審者対応の講習もしてもらっています。

Data

明星小学校には、都内近郊の様々なところからお友だちが通っています

埼玉県 13人 東京都 562人 神奈川県 3人

児童の安全・安心を確保するために、登下校時、明星学苑と国分寺・府中駅間にノンストップの急行バスが運行されています。





さわやかな気持ちに

緑に囲まれた明星学苑を歩くと、すれ違うたくさんの生徒が元気に挨拶してくれます。長男を明星幼稚園に送迎していたときは、そのさわやかな挨拶で私も嬉しい気持ちになり、自分の子どもも元気に挨拶をして、相手をさわやかで嬉しい気持ちにさせるような子に育ってほしいと思っていました。

実際に子どもが明星小学校に入学してあらためて感じたのは、教育目標である「正直なよい子の育成」のもと、子ども一人ひとりに向き合っ、手塩にかける教育を実践していただいている先生方、また下級生にやさしく、模範を示してくれる上級生の存在が、心優しく礼儀正しい生徒を育てているということでした。

今は、長男が6年生、長女が3年生となり、明星学苑の教育理念に触れながら、たくましく育っていく姿、また何より楽しそうに学校に通う姿を見ると、明星小学校に入学して本当に良かったと思います。

Voice from Graduates



「実感している大切なこと」

安齋 椋 | 2005年3月卒 |
明星大学教育学部卒業 / 東京都立小学校教員

何事においても必要な集中力を培ってくれた凝念。小学校から高等学校までの12年間続けてきました。特に小学校の在学時は、必ず授業や食事、テストの前などにしっかりと凝念を行っていた記憶があります。それにより気持ちの切り替えがしっかりとでき、集中して物事に取り組むことの大切さを学び、物事がスムーズに進むようになりました。

現在働いている中で、その時に学んだことが仕事の基盤となり、私自身の支えとなっています。そのことを教えてくださった先生方に出会えたのが、この明星小学校です。

Voice from Parents

「豊かな心」と「深い学び」

私は、明星小学校の卒業生です。私自身が小学校時代を受けた教養は、知識を詰め込むだけの教育ではなく、様々なことを体験し、新たな発見や学ぶことの楽しさを知ること、そして自らの頭で物事を考え行動できる人になるということでした。

娘の進路を考えた際に、この子にも同じ教育を受けてもらいたいという気持ちから、明星小学校を選びました。

緑豊かな環境で質の高い授業を受け、子どもの個性を大切に、心の教育をしてくださる先生方、かけがえのない友人たちとの出会いの中で、娘は豊かな心と深い学びを得ながら成長してくれると思っています。

学校生活を楽しむ娘の姿を見て、あらためてこの学校を選んでよかったと心から感じています。



『自ら考える力』 私の基礎となった6年間

水越 望杏 | 2016年3月卒 |
明星大学経営学部経営学科入学

明星小学校の授業は、ただ教えるだけの授業ではなく、私たちに考えさせるような授業で、自然と主体性や積極性が身に付いていたと思います。楽しく学ぶことができたのは、先生方が日々工夫してくださっていたからだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

大学では、学びに常に貪欲に、新たな環境や人との出会いに感謝し、たくさんの経験を積んでいきます。そして小学校から高等学校、大学での学びを生かし、将来の夢をかかえていきたいと思っています。

先生方から学んだ「自ら考える力」は、今でも私の宝物です。



スカッとさわやかに!

『賢さ』と『豊かさ』を 追い求めて

細水 保宏
明星小学校 校長

「スカッとさわやかに…」

この言葉は、私が教師になったときの最初のクラス目標で、それ以来、いつも担任したクラスの黒板の上に「合い言葉」として掲示してきました。この明星小学校でも校長室に掲示し、機会あるごとに「さわやかな人になるためにはどのようにしたらよいのか」に触れながら、子どもたちと「さわやか探しの旅」をしています。

例えば、全力を出し切ったときの気持ち、その時流した汗の味は、実にさわやかです。また、全力で取り組んでいる人の姿や笑顔を見ると、さわやかな空気を感じます。自分のことをいつも誰かが見ていてくれる、想っていてくれると感じたときや、友達や周りの人の優しさや思いやりの気持ちに出会ったとき、みんなと一緒に物事を成し遂げたときなども、さわやかな気持ちになります。また、そのさわやかな気持ちが、みんなと一緒にやりたい、みんなの喜ぶ顔がみたい、といった次へのエネルギー源になると感じています。

「独自のプログラム」

明星小学校では、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を受け継ぎながら、心の働きを強くする「凝念」、夢を叶える力を育む「深い学び」、感動の数で心を育てる「体験」、を柱として、『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった人の育成を目指しています。

教育は、3年後、6年後、9年後の姿を想い、今何をすべきか考えていくことが大切であると考えています。そ

こで、独自のプログラム(これからの社会に必要な不可欠な英語力と理数力の育成、先進的プログラミング教育を重視したプログラム、五感を通して学び、生きる力を育むプログラム)を中心に据え、子どもたち一人ひとりの個性が輝き、笑顔あふれる学びの場を創っています。また、新たに「探究」をテーマに、知的好奇心と学びを楽しむ心、創造性、企画力、プレゼン力等を育む「探究」のプログラムも創っています。

「教師の授業力」と「チーム学校力」

教師の授業力や人間性が子どもたちに大きく影響することを考え、教師に必要な資質・能力、授業力を切磋琢磨しながら豊かなものにしていきます。

子どもたち一人ひとりの幸せを願う。それは、教師も保護者の方々も共通の願いです。保護者の方々も「チーム明星」の一員となっただけ、「さわやか探しの旅」を楽しんでいただきたいと思っています。そして、この学校で6年間を終えたときの卒業式、あるいは、卒業してからも、この明星小学校を母校として過ごせてよかったと思って欲しいと感じています。

どんな子も心開いて、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を目指し、子どもたち、保護者の方々、教職員一同がチームを組んで一緒に創っていく、それが私の学校づくりの強い想いです。

是非、一緒に創っていきませんか。
もちろん、合言葉は、「スカッとさわやかに!」。

History of Meiseigakuen 学苑のあゆみ

1920	1923 明星実務学校 創立	1927 明星中学校に 改組	1948 明星高等学校開校	1949 明星幼稚園開園	1950 明星小学校 開校	1953 英語授業始まる (4・5・6年生)	1964 明星大学開学	1973 明星学苑 創立50周年	1975 外国人講師による 1・2年生の 英語授業始まる	1983 コンピューター 教育開始	2002 明星小学校 新校舎竣工	2003 明星中学校 共学開始	2006 明星高等学校 共学開始	2010	2013 明星学苑 創立90周年	2014 「明星っ子クラブ」 (放課後預かり)開始	2015 人工芝の校庭 完成	2020 明星小学校創立70周年	2023 明星学苑創立100周年
------	----------------------	----------------------	------------------	-----------------	---------------------	------------------------------	----------------	------------------------	---------------------------------------	-------------------------	------------------------	-----------------------	------------------------	------	------------------------	---------------------------------	----------------------	---------------------	---------------------